

全国患者図書サービス連絡会会報

No.3

Feb. 1995

公共図書館の立場から「患者図書サービス」を考える	菅原 勲	1
会員活動報告 東京都老人医療センター「はっぴい文庫」	前田 みち	2
新入会員自己紹介		4
平成7年総会の開催について		8
事務局よりお知らせ 編集後記		9

公共図書館の立場から『患者図書サービス』を考える

菅原 勲

1. いま、患者への図書館サービスとは

これは、11年前の1983年10月に出版された『患者図書館』の序文を書いた際につけた見出しである。その訴えの思いは次の点にあった。当時の公共図書館（大部分は公立であるが）の到達点であった「いつでも」「誰でも」「どこでも」「何でも」という図書館サービスの理念から、必然的に「図書館利用に障害のある人々へのサービス」が緊急の課題として各地で追求されたわけであるが、筆者に、その「障害者サービス」（前記の略称）の核となり得るものは、「入院患者への図書館サービス」ではなかろうかという確信が次第に強まっていったのである。その確信によって「序文」を草した者としても、今回、このような「連絡会」が各界の発起によって結成されたことに、深く敬意を表するものである。

現在、本「全国患者図書サービス連絡会」は医療関係者・ボランティア・病院図書室・公共図書館など多岐な構成による運動なので、私の言う図書館サービスとは必ずしも万端一致するものではないと思うが、その精神・到達点に変わりはないと認識している。

2. サービスの方法についてどう考えているか

- (1) 最善は、従事者問題はともあれ、病院内に病院図書館（患者図書館）を設置することである。常時開館し、病室巡回も並行できれば立派なものである。
- (2) 外部からのアプローチは次善の策である。病院が自主的に考え、従事者と資料について、ボランティア・公共図書館などから提供してもらう。
 - ・アプローチA 巡回方式で、ワゴン車・ブックトラック等で病室を巡回し、ベットに固定された入院患者にサービスできる点で最高のものである。
 - ・アプローチB コーナー方式（店開き方式）。コーナー・室の一隅などに臨時に店開きをおこなう方式で、出向ける患者という弱点があるが、巡回方式の何倍かの資料を展示できる利点がある。
 - ・アプローチC 駐車方式である。自動車図書館・巡回車などによって、門前・構内に一定時駐車するもので、資料は豊富である反面、通常、利用者は一旦外へ出なければならぬという弱点がある。

A・Bの方式はボランティアも自由にとりくめるが、C方式は、ボランティアは難しいのではなかろうか。BとCの方式による場合でも、Aの巡回方式をセットで行え

れば理想であり、その弱点もカバーできると思う。

(3) その他・略。

3. ボランティアと公共図書館

ボランティアの真骨頂は自発性と、その分野について何らかの見識をもつところにあるので、「患者図書サービス」についてもボランティアの進出は歓迎されるべきである。公共図書館に期待されるものは、ボランティアの進出していない病院におけるサービスと、ボランティアが図書館にのぞむ補完的分野（資料の供給など）であると考えられる。

いずれがとりくむにせよ、このサービスは価値が大きく奥の深い仕事であり、しかも、無限と言ってもよい程いたるところに存在し、一日も早いとりくみが待たれているのである。

会員活動報告

東京都老人医療センター「はっぴい文庫」

前田 みち

東京都老人医療センターでのボランティア活動の始まりは、作家の遠藤周作氏が新聞紙上で「心あたたかな病院を思う」と題した一文がきっかけとなり、遠藤ボランティア・グループが発足し、東京都老人医療センターに勤務の後藤久夫さんなどの働きかけで図書ボランティアに関心のある者が集まり「はっぴい文庫」のスタートとなった。病院からは、医事課長、管理課長、看護科長も活動の相談役に加わっていただき、必要な備品—図書原簿、ブックトラック、貸出カード、エプロンなどを購入し「図書の貸出を通して患者さんとの人間的つながり」をモットーに活動を開始することになった。意欲を喪失の患者さんの回復のきっかけとなり、入院生活に潤いと彩りをもっていただければと願いつつ、満7年の活動が続いている。

活動内容を簡単に紹介すると活動日は、月に3回でブックトラックの整理、連絡ノートで申し送り事項を確かめ、午後1時から指定された病棟（5病棟）を回り始める。まず看護婦室に立ち寄り挨拶および注意事項を聞き、看護婦室に戻ってきている返却本の記録をし、順次、各病室を訪問する。本と朗読テープの貸出や返却をしながら、患者さんとの会話をこころがけて、「おだいじに」と退出し巡回を終わる。ボランティア室に再びもどり、貸出冊数および人数の記録、本の整理、連絡ノートを記入し、豊かな雑談のなか活動

を終わる。

会員数・・・ 25名(男性3名) 1活動日4～6名
活動日・・・ 月3回(第1・4土曜日 第2木曜日)
訪問病棟・・・ 5病棟 約50室 220床
蔵書・・・ 約1200冊 カセットテープ120巻
(病院での購入、寄贈、ボランティア基金など)
ブックトラック・・・ 4台
貸出状況・・・ 1994年 図書・・・ 約990人、2000冊
テープ・・・ 約50人、160巻
1回平均 25～30人、40～50冊

活動をスタートさせた当初は、病院側はボランティアを受け入れるのに慣れていなかったもので、胸に名札を付け、揃いのエプロンを付けることによって、視覚的にも存在を認めてもらい、現在は、患者さん以外にもドクター、看護婦さん、付き添いの家族にも貸し出せるようにし、些細なトラブルも恐れずそのつど、各病棟の婦長さんなどと連絡を取り合って対処している。間に入って相談にのってくださる方の存在は大きい。

今後の課題としては・・・

- 1 未返却図書の対応をどうするか
退院時に持って帰ったと思われる時は、看護婦さんを通じて連絡などをするが、少しずつ未返却本が増える。
- 2 患者さんからの要望に沿った図書選択をどのように行うか
こんな本が読みたいという患者さんの希望を予めリクエスト・カード等を作って聞いておく。現状では、人員不足のためなかなかそこまできめ細かくできない。
- 3 ボランティアの定着の問題
社会的交流としてのボランティア活動は、新しい風を送り込むという意味で、学校の休み期間の高校生の短期ボランティアの受け入れは可能か。
- 4 ボランティアの交流
ボランティア同士の交流もさることながら病院サイド意見交換は、年に一度程度しか行えないのが現状であり、ましてや他のグループとの交流は、勉強になると思うが、活動が精一杯という状況である。

最後に「はっぴい文庫」は移動図書館ではなく、あくまで”本”というものを媒介にして、患者さんと人間的コミュニケーションをはかることが目的なので、ボランティアも、患者さんもしゃべれば受け入れてくださる側も楽しいひとときであれば・・・と願う。

*** 新入会員自己紹介 ***

<団体会員>

◆ 高山赤十字病院図書室

図書ボランティア代表 下目歌子

平成4年末、病院の増改築により病棟の最上階（6階）に患者用ラウンジ（約220）ができ、その半分が本棚・カウンター・テーブルがあり、日本アルプスや市街が展望できる快適な場所です。

それ以前は日赤奉仕団が中心となり、毎週土曜日の午後にブックトラックを病棟に運んで貸出をしていました。本を満載したブックトラックは重く、移動が大変でしたが、部屋が設置されたので作業が楽になりました。

個人で図書ボランティアに参加する人も増え、現在は14名と2団体、年齢も30代から60代です。貸出日も月曜日から金曜日、午前10時から午後2時迄と延長され、各曜日毎の担当グループを作り、交替でサービスにあたっています。終了時間をオーバーすることもあります。患者さんとのんびり世間話できる時もあり、楽しみながら活動しています。

1ヶ月間の図書貸出数は600冊前後です。主な作業は、貸出、返却本の消毒、寄贈本の受付、書棚の整理などですが、時間に余裕のある時には、ラウンジにいてできる他のボランティア作業を行ったりしています。

ボランティアの人数が増え交替で貸出するようになったため、各曜日のグループ間では活動についての考え方のばらつきがでてきました。活動が定着するまでは、意見交換の場を多くもつことが大切かと思われれます。また、多くの寄贈本の中からどの本を選択して書棚に並べるかは、今後の課題の一つに思っています。

高山赤十字病院（1994.5.18入会） *No.2掲載済

所在地：〒506 岐阜県高山市天満町三丁目11番地

代表者：病院ボランティア世話係 古川孝彦

◆ 県立がんセンター新潟病院 患者図書サービス

「あかね文庫」

図書室 有田由美子（世話役）

「あかね文庫」が発足したのは、平成6年2月です。もうじき1年になろうとしています。当文庫は、毎週1回の病室巡回（3病棟）と院内に2つの書棚を設置して、ボランティアグループあかね会の活動によって運営されています。開設に際して、財源を新潟県健康開発財団からの補助金30万円で書棚、ブックトラック、本などを購入しました。その後、本はほとんど寄付により現在3,000冊を超えました。

まだまだ活動は試行錯誤の最中ですが、内容を紹介させていただきます。現在あかね会の会員は、7名です。会員の活動時間は、毎週木曜日午後1時30分から3時30分の2時間です。活動は、2班に分かれて行います。班の仕事は1ヶ月ごとに交代します。片班は、2台あるブックトラックに本を積んで病棟へ巡回に行き、終わったら残りの本を書棚に配架し、それまで配架されていた本を回収してきます。なお、2本の書棚の本は、1ヶ月に1回すべて内容を取り替えています。

もう片班は、最初に書棚の整理に行き、棚からあふれている本を回収してきます。それから、寄付された本の受け入れを行います。受け入れ作業は、図書室奥の屋内ベランダで行っています。手狭な場所に、書棚が5本、作業用のテーブルが1台でもうぎりぎりです。本の受け入れは、本の内容をカードに書き取り、分類のカラーシールを背表紙に貼り、茜文庫シールを表紙に貼って終了です。また、患者さんからのリクエストに可能な限り答えられるように、作業場の本を著者名順に並べ、またカードは書名順に並べています。その理由は、リクエストされた本の有無をすぐ確認でき、またあれば即探し出せるようにするためです。

現在の課題は、

1. 書棚やブックトラックの本を頻繁に取り替えてほしいという希望に答えること。
2. どんな本を選んで持っていくか。
3. 新刊を購入するために財源を確保したい。
4. 返却された本を書棚にもどすのは時間がかかり、2時間の枠内ではとても作業できないこと。これについては、もう少し人手が必要であると思われるので、ボランティアさんを募集している最中です。

また今後は、院内の全病棟のダイルームに書棚が設置される予定です。

このたびの入会で、他の皆さんのいろいろな形の患者図書サービスを参考にさせていただきながら、私たちの活動もより良く長く続けていければと願っています。どうぞよろしくお願いします。

新潟県立がんセンター新潟病院ボランティアあかね会 (1994.11.10入会)

代表者：病院あかね会世話係 有田由美子

所在地：〒951 新潟市川岸町2-15-33

新潟県立がんセンター新潟病院図書室気付

<個人会員>

◆ 「虎の門文庫」—はじまりから、現在まで—

下山田しづ子

港区にある虎の門病院は、川崎市の梶ヶ谷に分院があり、「虎の門文庫」は、分院の薬局の前にある図書コーナーである。分院は昭和41年創立、診療科目、肝臓科、腎センター、整形外科、精神科、神経内科など9科、職員数252名、国家公務員等共済組合連合会が運営する病院である。

平成2年から、医師、心理療法士、作業療法士、言語療法士、看護婦の有志が呼びかけ人となり、院内ボランティアを募って準備を進め、平成3年から、寄贈本を受けつけた。本の装備などは、患者もりハビリテーションの一端として参加し、平成4年2月、病院の改築に伴い、現在の場所に開設したのである。

秋には、院外から遠藤ボランティアグループが加わり、今は病棟の巡回もしている。

平成6年末現在蔵書数6,000冊、本を置くスペースがなくなったこと、院内、院外共ボランティアが少数なので、整理の遅れ、書棚の乱れなど、問題点はたくさんある。また、欲を言えば、資金源がないので、読者の希望に応えられないのも残念である。

最後に私は、病院にお世話になっている患者ボランティアで、受診日に本の整理を手伝わせてもらっている。入会を機に、勉強したいと思う。

下山田しづ子 (1994.11.7入会)

住所：〒165 東京都中野区野方5-33-9

備考：虎の門病院分院内 虎の門文庫所属

◆ 下原廣子

私は、昭和41年国立図書館短期大学（現図書館情報大学）を卒業してからずっと司書と

して働いてきました。3つの図書館を経験しましたが、医学図書館がもっとも長く、東邦大学医学部図書館に勤務して20年近くなります。3年前、東邦大学佐倉病院が開設され、院内に設置された小さな図書室をまかされることになりました。資料が乏しいので、コンピュータによる文献検索で医学情報を提供すること、そして論文のコピーを入手することが、主な仕事です。サービスする相手は医師をはじめとする医療従事者に限られています。

医学情報のほとんどは確かに専門的知識であるには違いありません。しかし当の患者にとって自分の生命を左右するほどの意味をもつ情報を専門家だけのものにしておくことになり前から疑問を感じていました。病院の患者さんや地域の住民にも医学情報を提供したい、これが今私がいただいている夢なのです。

下原康子 (1994.11.20入会)

住所：〒284 千葉県佐倉市下志津564-1

備考：東邦大学佐倉病院図書室勤務

◆ 菅原勲

拝啓 貴会のことを最近知りました。現役を退いて10年以上過ぎましたが、その後の進展について、ときに気になっていたところです。貴会の成立を心強く感じている次第です。入会させていただければ幸いです。(入会時通信欄より)

菅原氏には、巻頭に『公共図書館の立場から「患者図書サービス」を考える』という題で投稿していただきました。

菅原勲 (1994.9.21入会)

住所：〒297-02 千葉県長生郡長柄町金谷186

備考：『患者と図書館』(明窓社発行)の著者。

全国患者図書サービス連絡会平成7年総会の開催について

会員 各位

会長 岡部 禹雄

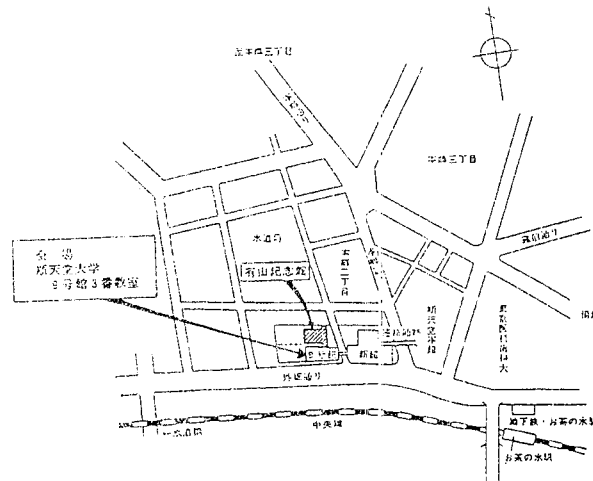
平成7年総会を下記のとおり開催いたしますので、会員各位の出席をお願いします。
なお、同封ハガキで出欠席を事務局あて2月25日までにお知らせください。

記

- 日時 : 平成7年3月5日(日) 午後1:00—4:30
場所 : 順天堂大学9号館3番教室
総会 : 1. 平成6年活動報告
2. 平成6年会計報告
3. 平成7年活動計画
4. 平成7年予算計画
5. その他

シンポジウム :

<テーマ> 患者さんが図書サービスに求めるもの



懇親会を開く計画があります。.... (事務局より)

◆事務局よりお知らせ

[事務局の住所変更]

この2月から事務局の住所を下記に変更いたします。私自身勤務先は変わりませんが、なるべく連絡は手紙またはmailアドレスにmailして下さるようお願いいたします。

[平成7年会費納入]

平成7年会費を同封振込書で入金してください。総会の時でもけっこうです。

☆☆☆☆☆☆

編集後記

38.5℃の熱と義父の入院で今年は始まり
ました。結婚以来のんきに生活してき
ましたが、家族が入院するという初めて
の出来事にあたふたしてしまっただが、
現実です。実は、今回の入院の前に検査
のため去年11月に入院しており、毎日
医学資料を扱っている私としては、妙に
敏感に悪いほうへ悪いほうへと考えてし
まい、自分の仕事を呪ったものです。

義父は幸い順調に回復し、あとは退院を
待つ身となりました。今年は新年早々から
健康のありがたさを再認識しました。
事務局を引き受けてから1年が過ぎまし
た。結局、たいしたこともできず、会報も
今回でやっと3号が出せました。つくづく
日常生活の中でのボランティア参加のたい
へんさを感じています。でも、また1年が
んばります。よろしくお願ひします。

全国患者図書サービス連絡会会報

No. 3 1995. 2. 10 発行

編集発行 全国患者図書サービス連絡会事務局

〒400 山梨県甲府市大手1-2-11

水上 佳子

TEL 0552 (52) 0960

Internet : yoshikom@res.yamanashi-med.ac.jp

Nifty-serve : GEG05343

郵便振替口座 / 00470-6-13321
